

令和7年度 東京都立調布南高等学校 学校経営報告

令和7年度の取組目標と方策 および 重点目標と方策〔 〕は令和6年度数値	自己評価及び課題と改善策【 】目標値
<p>1 「学習指導」 デジタルとリアルを融合した教科指導を推進し学習時間の確保を早期段階から図る</p> <p>①主体的・対話的で深い学びの視点からの質問項目を精査した授業評価アンケートを1学期末・2学期末に実施し、教科会等で協議し授業改善に努め、指導方法や授業内容の充実を図る。</p> <p>②観点別評価を教科ごとに検証し、「指導と評価の一体化」の実現を目指し、一層工夫を図る。</p> <p>③各教科課題や復習・予習の励行、小テストの実施など意図的・計画的に実践し、自主的に学習に取り組める習慣を身に付けさせる。また、自習室等の活用励行、デジタルツールを活用した学習時間調査などを計画的に実施し早期段階から学習習慣を定着させる。</p> <p>④教育ダッシュボード等を活用して、入試や模擬試験、定期考査等の組織的な分析を実施する。</p> <p>⑤教員相互の授業見学実施など授業研究を充実させ、授業改善に資する。</p> <p>⑥土曜授業や習熟度別授業を展開し、生徒一人一人が高い目標に挑戦できる学力の向上を図る。</p> <p>⑦各教科で言語活動の充実を図り、司書教諭を中心に図書館専門支援員と連携し読書活動を推進する。</p> <p>⑧ICT活用委員会を中心として教育活動のDX化を図る。また、リアテンドント等を有効活用し、教育の働き方改革を図る。</p> <p>【重点目標】○学校評価項目3「学習指導」生徒肯定的評価80%〔79〕保護者肯定的評価91%〔90〕 ○授業評価アンケートの肯定的評価80%【追加】 ○家庭学習時間(1日平均(自習室等も含む)) 3学年平均120分〔95〕 1学年90分〔72.3〕、2年90分〔49〕、3学年180分以上</p>	<p>B ①学校評価項目「授業とカリキュラム」 生徒肯定評価 81%、保護者肯定評価88%</p> <p>②授業評価アンケート:7月・12月実施 肯定率85% 7月:主体的に取り組む態度が若干低い傾向 12月:対話的学びを求める意見が散見</p> <p>③学習時間:3学年平均105.5分 3年171分 【180】<5月・11月進路調査の平均算出> 1年71.9分、2年73.6分【90】※1・2年はデジタルツールで日毎に学習時間入力し月毎算出(成果と課題)授業評価を本格実施し各教員へのフィードバックを徹底した。ペアワークや双方向のやり取りを求める意見が多く、全教員へ徹底する必要がある。学習時間状況は良い傾向のクラスが増加している。 (改善策)授業改善は、評価だけでなく指導においても3観点の意識を教員が高める。学習時間を振り返る意義を浸透させ、良い実践例となる生徒状況を全体共有する機会を作る。</p>
<p>2 「進路指導」 社会の中で活躍し、挑戦できる精神の醸成を目指した進路指導</p> <p>①進路希望の100%実現に向け、分掌、学年、教科の連携を一層強化した組織的な指導と、「進路のしおり」や進路通信「M-PRIDE」を活用した系統的な進路計画に基づいた指導を推進する。</p> <p>②組織的な探究型学習を展開して2年探究学習成果発表会の内容充実を図り、キャリア教育推進への手立てとする。</p> <p>③海外学校間交流推進校予算を活用し、東京外国語大学の留学生と交流するなどグローバル人材育成に向けた取り組みを推進する。</p> <p>④進路希望調査(5月・11月)の分析や模擬試験分析会を着実に実施し、学校や学年の全体像を把握するとともに、個に応じた指導を推進する。</p> <p>⑤外部検定試験実施校として、1月に英語検定を全員受検、生徒一人一人が英検4技能のスコアを取得し、英語の早期学力形成を図るとともに、グローバル社会の中で挑戦できる資質・能力を身に付けさせる。</p> <p>⑥進路指導部が主体となり、長期休業期間中の講習・補習を充実させ、組織的・計画的に実施する。</p> <p>⑦保護者会や保護者向け進路説明会や講話、二者面談や三者面談などの実施により、保護者との情報の共有化を図り、家庭との連携を深めた指導を推進する。</p> <p>【重点目標】○進路決定率 94%〔94〕 ○長期休業講習・補習講座数50講座〔46〕受講延べ人数2500人〔R6:2658←R5:1214〕 ○国公立大学・大専合格者20人〔18〕 ○早慶上理・GMARCH等難関私立大合格者100人〔79〕</p>	<p>B ○進路決定率 91%【90】 ○長期休業中の講習数 50講座【50】 延べ人数2661名【2500】 ○国公立大合格7名【20】内訳:都立大3、 電通1、東京学芸1、信州1、福井県立1 ○早慶上理10、GMARCH84名 計94【100】 ※英検2級合格109→208名、準1級4→8名 (成果)改善策に掲げた英語の早期学力形成は英検全員受検で大きな成果を上げた。難関私立大合格者は芝浦工6名を加えるとほぼ目標に達し、都立大、電通、東京学芸の合格も輩出。 (課題)本校カリキュラムから受験教科を出来る限り絞らず国公立大志望者を最後まで減らさない指導を定着させる。成績上位層の健闘に加え、成績中位層の底上げが課題である。 (改善策)3年夏までの学習時間確保と、2年時までの学習時間のムラを無くす。英検全員受検等で英語の早期学力形成を継続する。</p>
<p>3 「生活指導」 社会規範の定着と自主性の育成</p> <p>①朝の校門での挨拶指導を全校体制で展開、日常での挨拶を励行し、お互いに思いやる態度を育てる。</p> <p>②生活指導指針に基づき指導内容の共通化を図り、学校生活のあらゆる場面で時間を意識した行動の徹底を図り、身だしなみ等は社会に出てから困らないマナーの理解を深めさせるよう、年間を通して組織的に指導をする。</p> <p>③多様性を尊重する視点から、校則の見直しや、女子のスラックスの着用などの変化に対応しつつ、調布南高校のあるべき姿を生徒、保護者、教職員が共有できるよう対話を継続していく。</p> <p>④人権尊重の観点から、適切にSNSルールの徹底や情報通信機器を使用するための情報モラルの育成を図る。</p> <p>⑤いじめ等に関する情報について、学校生活における生徒観察、学年会などを通してささいなことでも共有し、毎学期いじめアンケートも活用して早期発見に努める。いじめ等が発生した場合は、学校いじめ対策委員会など、組織的に迅速に対応し解決を図る。</p> <p>⑥自殺防止に向けた取組を徹底するために、生命の大切さを伝え、連休前後や長期休業日前後などを重点的に、校内組織と担任間で生徒情報を共有する。また、スクールカウンセラーや外部機関なども積極的に活用する。</p> <p>【重点目標】学校評価質問項目6「規範意識」生徒の肯定的評価97〔97〕 学校評価質問項目9「相談体制」生徒肯定的評価75〔71〕、保護者肯定的評価75〔68〕 いじめ重大事態件数0件</p>	<p>A ○学校評価「規範意識」 生徒肯定的評価97%【97】 ○学校評価「相談体制」 生徒肯定的評価 81%【75】 保護者肯定的評価79%【75】 ○いじめ重大事態の件数0【0】 (成果)学校評価「規範意識」は高水準で維持できている。「相談体制」は肯定評価が目標を超え、相談件数はSC複数体制の効果あり倍増した。SC通信も発出した。 (課題)学年担任と連相談体制は課題解消しつつあるが、不登校生徒や特別支援が必要な生徒の実践例が増えている。 (改善策)生徒支援委員会を活用した組織的な取組を適時実施していく必要がある。面談方針を統一し、学年内の情報共有やSC・養護教諭の連携を密に学校全体で支援していく。</p>

<p>4 「特別活動・部活動」 社会性を育む特別活動の推進</p> <p>①生徒の意欲的な取組を支援し、学校行事や修学旅行等の学年行事、生徒会活動、委員会活動、部活動などを通して主体性、協調性等を育み、学校生活の満足度を高める。</p> <p>②部活動指導員等を活用して指導体制を整え、運動部活動指針や文化部活動指針に基づき、「生徒にとって望ましいスポーツ環境・文化芸術環境を構築する」ための部活動運営を行い、高い部活動加入率と活動の活性化を目指す。</p> <p>③部活動のガイドラインに沿った活動で、充実した部活動と家庭学習確保のバランスを自己管理できるように指導し、退部することなく部活動をやりきる力を育む。</p> <p>④部活動保護者会等を通して、保護者への情報提供と連携を図り、生徒一人一人が高い目標を持ち集中して取り組めるようにする。</p> <p>⑤「学校2020レガシー」を構築し、ボランティアマインド、障害者理解を高めさせ、「東京都特別支援教育推進計画（第二期）」に基づく取組を実践し、人権感覚を養う。</p> <p>【重点目標】○学校評価7「行事・部活動」生徒肯定的評価92〔91〕、保護者肯定的評価92%〔92〕 ○部活動加入率99%〔99%〕 ○都大会・コンクールにおけるベスト32相当への進出6部〔6〕</p>	<p>B ○学校評価「行事・部活動」 生徒肯定的評価 92%【92】 保護者肯定的評価94%【92】</p> <p>○部活動生徒加入率99.7%【95】 ○都大会32相当以上進出4部【6】 (成果)体育委員、文化委員など各種委員会やHR委員・旅行委員等でも主体的な取組が増えている。 (課題)改訂される部活動ガイドラインを早期に周知し、それを遵守した活動を徹底していく。年度当初の高い加入率を維持し、退部することなく部活動をやりきることが課題である。 (改善策)管理職からの方針を明確にして教員相互でも注意喚起を徹底する。</p>
<p>5 「募集活動・魅力発信への広報活動」 意図的・計画的な広報活動、地域貢献への取組</p> <p>①学校ホームページの内容を充実させ、生徒の活躍をリアルタイムで発信する。</p> <p>②学校見学会や学校説明会、トライ＆チャレンジ（部活動体験および授業体験）を計画的に開催し、各教員が様々な形で本校の魅力を直接中学生へ伝える取組を行う。</p> <p>③東京都、各区や各市、NPO等が主催による外部説明会・個別相談会に積極的に参加し、本校の魅力発信に努める。</p> <p>④中学校への出張説明、出前授業などに積極的に参加することによって、本校を第一希望とする生徒の掘り起こす取組を活性化していく。</p> <p>⑤生徒会や部活動などを中心にボランティアマインドを醸成し、地域の小・中学校、特別支援学校等の行事、地域のイベントなどへ参加し、調布市を代表する高校を目指すとともにその取組を広く周知していく。</p> <p>【重点目標】○ホームページの更新回数320回〔317〕 ○学校見学会来校者1350人以上〔1307〕 ○学校説明会来校者 1800人〔1787〕 ○中学校第一希望調査1.50倍〔1.39〕 ○外部での募集に向けた広報活動、説明会・個別相談会への参加件数 20回以上〔17〕 ○推薦に基づく選抜応募倍率2.1〔2.1〕 ○学力検査応募倍率 1.75〔1.71〕</p>	<p>C ○HP更新423回【320】都立EXPO614人 ○学校見学会来校者1384人【1350】 ○学校説明会来校者1525人【1800】 ○外部説明会等の参加件数18件【20】 ●中進対第一希望調査1.20倍【1.50】 ●推薦選抜の応募倍率1.48【2.1】 ●学力検査の応募倍率1.50【1.75】</p> <p>(課題)11月以降の説明会参加者数が頭打ちとなり、個別相談状況も今一つだった。第一志望調査や応募倍率は昨年を下回った。私立校授業料無償化の影響を意識した対策が必須。 (改善策)推薦入選方法、説明会プレゼン内容を年度当初から協議していく。本校の強みと弱みを見極め、教員の共通認識を高める。</p>
<p>6 「体力向上と健康づくり」 環境整備と健康・安全教育</p> <p>①「TOKYO ACTIVE PLAN for students」を参考に授業や特別活動、部活動等において、生涯に渡ってスポーツに親しむ態度を育てるとともに、体力テストの結果を活用した基礎体力向上・健康増進に向けた取組を推進する。</p> <p>②健康講話や交通安全教室等の実施により、主体的に健康・安全に留意する習慣を身に付け社会生活の中での実践を促すとともに、交通ルールを守り、自らの命を守るため、自転車乗車時のヘルメット着用の指導を徹底する。</p> <p>③避難訓練や地域防災訓練等、外部機関とも連携し、自助・共助の精神を養い、防災に関する実践力を高める。</p> <p>④リサイクル徹底やゴミの分別等学校生活における環境を整理・整頓し校内美化の徹底を進める。</p> <p>⑤各種感染症拡大に備え、感染防止の意識と習慣を維持するとともに学校医等との連携を密にする。</p> <p>【重点目標】○学校評価質問項目8「防災・安全指導」生徒の肯定的評価87%〔87〕 ○生徒の自転車乗車時におけるヘルメット着用率 100%〔100%〕</p>	<p>B ○学校評価「防災・安全指導」 生徒肯定的評価87%【87】 保護者肯定的評価88%【83】</p> <p>(成果)全職員で取り組む朝の校門指導や生徒会等の働きかけを継続出来ている。土日休日避難所運営に関わる協定を調布市と再提携。 (課題)自転車マナー等で苦情あり、注意喚起する場面もあった。感染拡大による複数の学級閉鎖が二度あり感染防止意識向上が課題。 (改善策)部活動やクラス等の感染状況を職員間の情報共有で早期発見し、学校医等との連携を密に取り早期対応していく。</p>
<p>7 「学校経営・組織体制」 組織としての課題解決に向けた対応</p> <p>①主幹教諭を中心に各分掌・学年の課題を整理し、実践するための調整に尽力し、企画調整会議の機能を活性化させ、課題の解決に取り組む。</p> <p>②体罰・不適切な指導の防止、個人情報の不適切な取扱いの防止、生徒・保護者とのSNS等での連絡に関する確認、通勤届と通勤方法の確認など定期的な服務事故防止研修と適時適切な指導により服務事故の未然防止を徹底する。</p> <p>③令和7年度周年行事準備委員会により骨子を作り、PTAや同窓会、つばみの会（PTAのOB・OG会）と連携して進行していく。</p> <p>④職員会議をペーパーレスで1時間以内の実施とするなど効率化などを図り、部活動指導員やティーチング・アシスタントの導入を推進し業務縮減に向けた取組を推進する。また、教職員の育児・介護を支援するとともに、勤務時間に対する意識改革を進め、月毎の勤務時間外在校時間45時間超えの職員数を着実に減少させる。</p> <p>⑤教員と経営企画室との連携を密にして、空調工事を円滑に進め、海外学校間交流推進校や自律経営予算の有効活用、学校徴収金の適正な執行などの効果的な経営参画を促進する。</p> <p>【重点目標】○学校評価項目「学校充実度」生徒肯定的評価92%〔92〕保護者肯定的評価93%〔93〕 ○勤務時間外在校時間の月45時間超えの月毎延べ人数を前年比80%に減少を目指す。</p>	<p>B○学校評価項目「学校生活充実度」 生徒肯定評価92%、保護者肯定評価94% ○勤務時間外在校時間45時間超延べ数 153名（R6：150）【120】</p> <p>(成果と課題)学校充実度では高い評価を得たが、部活動指導員による不適切な指導あり課題がある。また、勤務時間外在校時間45時間超は学校行事実施の月に多い傾向がある。 50周年記念式典に向けては骨子確定と次年度実行委員会開催計画を確定した。 (改善策と展望)部活動指導員には、管理職の面接機会の創出していく。学校行事の運営管理においては、働き方改革の観点も踏まえ、生徒の主体性を尊重しつつ、担当分掌以外も関与する体制を作る。</p>